

中齋塾 東京フォーラム
平成 27 年度 第 4 回講話

平成 27 年 4 月 11 日
於 湯島聖堂

如水会館にて…

今日は久しぶりの方が、あちらこちらに見えて非常に楽しいです。ただ普段お出でになる方が今回は、少ないですね。

前回、如水会館に飾ってある渋澤栄一の書を御紹介しました。さっそく竹岡さんが如水会館に行ったそうですが、渋澤栄一の書が無かった。如水会館の受付に聞いても何も知らない「そんな物があるんですか」という答えだった。

私は「5 階の講堂にあると聞いています」とお答えしましたが、氣になりまして、見てきました。見てきた内容のことを本人に話すつもりでいたら、今回はお休み。

渋澤栄一が「君子の交わりは淡きこと、水の如し」と論語の中から取って、その時に如水会と名付けました。現在は一般社団法人如水会館となっています。

如水会館に行ってみたら、やはり人の話しというのは、なかなか当てになりませんね。行った方の記憶は 5 階の講堂だったから行ってみましたが、実際は 3 階のレストランの中の正面に掲げてありました。良い字でした。写真を撮ってきましたけれども、一緒に行った方がレストランで食事を運ぶ若い女性に「この額を解説できる方はおられますか」と聞いたら「はい、おります」と元気に言うから「じゃあ、ちょっと教えて欲しい」と言ったら、話のできる人はそのキャプテン 1 人しかいなくて「今日お休みです」と言って、刷った物を持ってきました。ちょっとこれをご説明します。

<功名は多く窮中に向いて立ち、禍患は常に功処より生ず>の説明文は、「成功、功名というものの多くは困難の中から成就し、災いはいつも成功して得意になっているところから生ずる」と書いてありましたけれど、一番肝心なところが抜けている。

先ほど比田井副理事長が色々と言われましたが、ご自分の体験が入っています。ご自分の体験が入っている解説と入っていない解説は、天と地ほど違います。

「功名、成功というものの多くは困難の中から成就し」この文章からいけば、誰でも困難に見舞われたら成功するのか。嘘だと感じます。困難に見舞われたら殆どの人が潰れてしまう。苦しみがあつたら皆潰れてしまう。

確かに困難は新しい物の中から見つけているわけで、だから困難にぶつかった時それに向かっていこうという氣構えがなければ駄目です。困難は次から次に向かってきますので、真正面から向かって立つぞという氣構え、姿勢が無ければ何が功名、成功か。その部分が

そっくり抜け落ちている。この解説文を作った人は、苦しみとか悲しみは、ほんのちょっとだけしか経験していないという気がします。なおかつ「災いは、いつも成功して得意になっている所から生ずる」と、書いてありますので、この人は得意になっているところに冷や水浴びせられた経験があるから、こういう解説だと思って読んでいました。

色々な本などをお読みになる時は、息づかいを気にすると良いでしょう。本を読んでいると、その書いた人の息づかいが伝わってきます。息づかいが伝わってこないような本の読み方はまだまだだと思ってよいでしょう。本は、筆づかいや息づかいが伝わってくるものです。

本を読む時は、我が師匠ここにありと思って読むと良いでしょう。良い書物に巡り合ったら、良い先生に巡り合ったことと同じです。これは佐藤一斎も話していますが、良い師匠に巡り合って、その人格にまともにぶつかれることがあったら、これは素晴らしい。

中斎塾フォーラムの中でお話をさせていただく時、人名は意識しております。我が師匠木内信胤先生。実際に生きておられる時にお会いして、色々お話しを伺い自分の氣になるものは、その場ですぐお聞きすると即答えが返ってきていました。我が師と呼ばせていただいた唯一人のお方です。何度も話しておりますが、御本人は群馬に若い友達が出来たとおっしゃっていただき、私は思い出すたびに心がぽっと温かくなります。

先ほど猪瀬理事長が、中村天風先生を怪物といいましたが、怪物といったら確かに怪物だとは思いますが、暴れん坊のイメージが強い時は怪物ではあると思いました。でも読み込んでいけばいくほど、怪物の上にもうちょっと何かつきたくなりました。

天風先生は小説になっている物もあります。だから小説でお読みになると楽しく読めます。神渡良平さんの天風先生に関するところは、実に良い文章で秀逸の物がありますのでお薦めです。

そして安岡先生。私は正篤（せいとく）先生と読むのが好きです。これは息子の正泰理事長に、「正篤（せいとく）と読んで良いですか」とお聞きしたら、「本人も正篤（せいとく）さんと言われると「はい」と返事していましたし、どちらでも良いですよ」と。本人は「せいとく」と呼ばれるのが好きだったみたいですと答えが返ってきましたので、私は正篤（せいとく）先生と呼んでおります。

安岡先生が講義をする時の状況が浮かんできました。講義をしている時、羽織袴をビシッと身に着けておられる。それでお弟子さん達は正座をして聞いている。正しいことだと思います。正座をして聞いていると、真剣に聞いていても足が痺れて何を喋っているのか全然分からなくなり、ただひたすら油汗で我慢。話が終わって先生はスッと立ち上がって行かれる。残された弟子達は立ち上がろうとしても、立ち上がれず転げ回って、なかには縁側から下に転げ落ちる人もいた。そういう時に、きちんと話をしているから君達はきち

んと聞かなければ駄目だという叱責も飛ぶ。後半生に至っては、そういうことは無くなったようですけど、かなり厳しく指導されていたなと感じます。だんだん年を取ってくると柔らかくなられたようです。

飛び火して今度は、石川忠久先生も忠久（ただひさ）と読みますが「忠久（ちゅうきゅう）という読み方も良いと思いますが、どうですか」と先生にお聞きしましたら、「忠久（ちゅうきゅう）良いですね」と仰られますので、それからは忠久（ちゅうきゅう）先生とお呼びしています。ところが忠久（ちゅうきゅう）先生と言うと、お弟子さんは「名前の呼び方が違います」と言ったり、「忠久（ちゅうきゅう）って誰ですか」などと聞く人もいますので、なかなか伝わっていかないと思っていますが、私は自分のやりたい事をやりたいようにやるという人生を歩んでいますから、人様の名前も読みたいように読もうと思っています。ただ読みたいように読む時には、御本人、御本人が亡くなられていたらその近い人に確認して、どうぞと言ったら読むことにしています。

翻って河井継之助の場合は、「つぎのすけ」と言うのか、「つぐのすけ」と言うのか、御本人はどちらも「はい」と返事をしたと残っています。地元の新聞社が「つぎのすけ」という名前を間違えて「つぐのすけ」と書いたら、それが一般に流布してしまったという事実が現地に行ったら分かりました。

ちなみに現在は、「河井継之助（つぐのすけ）記念館」と「河井継之助（つぎのすけ）記念館」両方ありますが、名前を付けた人は同じ人でした。「どうして、そうしたのですか」と聞いたら、「元々は継之助（つぎのすけ）ですが、継之助（つぐのすけ）の方が世間に広がっているから、世間に広がっている呼び方のほうが人様は来てくれるのではと思って、そう名付けました」と言っていました。

ちょっと横に広がりましたが、「功名は多く窮中に向いて立ち、禍患は常に功処より生ず」この解説は、安岡正篤先生の感覚が良いと思います。天風先生の場合は行動です。

安岡正篤先生の説明は、書物の中から言葉を選び出してくるから、磨きぬいた解説になっています。ということで、人生の機微を味わないと中々ピリッとこない部分がありますので、こういうことは安岡先生流に解説するのが良いだろうと思っています。

これからの展望

ひとつ脱線をしておきます。昨日、如水会館に行って14階にあるサロンで話をしていました。あの時ちょっと考えましてね。というのは、すごく良いつくりで景色も良くてとても良い感じの場所。でも、そこは会員しか入れないサロンでした。周りを見渡しますと、人品骨柄いやしからざる紳士がたくさん居ました。私が話した人は「ところでお幾つですか」と聞きましたら「今84歳です」とおっしゃいます。あらためて、そのサロンに居る人達を見渡してみたら女性が皆無。80代もしくは90代と思われる紳士方ばかりでした。如水会館に行って思ったのは、やっぱり年齢層が色々混ざっているほうが良いなと思いました。年配の方は80代90代で良いのですが、それから70、60、50、40、30、20代ぐらい

までと、色々と混ざり合っているほうが切磋琢磨ではないけれども、磨かれて良いと思います。同じ年代層だけで、男性同士、女性同士だけだと、だんだん磨耗してくる。または感性が鈍ってくる。そんな気がしますので、如水会館の14階も悪くはないけれども3階のレストランの方が色々混ざっていましたから良いなあと思いました。

ちょっと質問をします。

- ・これからやりたいと思っている事をたくさんお持ちの方。
- ・やりたいと思っている事を2つ3つお持ちの方。または、やりたいと思うことが1つはある。

有難うございます。全部合わせれば大体皆さん手が挙がっています。やっぱり、やりたいと思うものをたくさん持っている方は、活発で新しい情報が入ってきて、歩く時には大股になるみたいです。

ちなみにこの間、私がやりたいことをずっと書き出してみたら12〜3書いたから、これはやりすぎだなと思って10ぐらいに止めておこうと思います。

まずは本を書こうと思っています。

『陽明学のすすめ』を、あと5冊書こう。それから今、お話しているものをまとめて『濼澤論語を読む』を手本にしたものを1冊書くから、本は6冊。それが終わったら妖怪変化の本を書くから7冊。これは書きたい。

それから体力の強化をしたい。

昨日の読売新聞で、こんな大きな一面広告がありました。まったく失礼なと思ったのは、ちょっと読みます。「近頃なんでもない事ができなくなってきた。靴を履く時よろける、重たい物が長く持てない、瓶の蓋が開けられない、歩幅が狭くなった、下りの階段がこわい、姿勢が前屈みになった、手すりがないと不安、バスや電車でよろける、横断歩道を青信号で渡りきれない、何でもない所でつまづく」

ヒヤッとする文章がいっぱい並んでいる。脅しのテクニックですね。これ見て反発をもちまして、体力の強化をやりようと思いました。

90歳だろうが100歳だろうが筋肉の強化はできます。最近、風呂で鏡を見ると筋肉がまたつき始めています。何故そう思ったかといいますと、先月68歳になり笑われるようなセリフが頭に浮かびました。

私は50代の時は60代に憧れていましたから60代になった時は、万歳と思った。67歳の時は、いつまでも67歳でありたいと思っていたら68歳になってしまいました。なったらがっかりするだろうなと思った途端、かつこいい70代を目指そうと思った。それは筋肉が少しずつまた、つき始めてきましたから。だからやりたいことが目白押しにある。やりたい事がいっぱいありますから、皆さんにお裾分けしておこうと思います。

テーマ

人間社会の崩壊 –金融危機–

冒頭、今日は楽しいと言いましたが、清水先生が見えている。せっかくお出でになったから、少し話をお聞きしたいと思います。

一月のテーマは、「人はその性格にあった事件しか出会わない」でしたが、これはその人の性格ですね。清水先生が南相馬市にボランティアに行かれるのは、性格ですね。その性格がそう動かさせていると思います。

二月のテーマは、「人間社会の崩壊–医療制度–」ですが、私がお話したのはオバマケアです。簡単にもう一度おさらいをしますと、皆保険制度、国民はすべからく保険をもてるように進めている。アメリカ・オレゴン州で具合が悪くなって医者に行く。日本の保険ですと先々も面倒を見てくれる。アメリカは医療のお金が掛かり過ぎるから、これ以上保険で面倒は見ません。治療を続けたければ、後は自腹を切って治療をしてください。あともう一つの選択肢は、薬局に行って安楽死薬を処方して貰う。それに掛かる費用は政府が持ちます。薬局に行って安楽死薬を貰ってくるか、家などを売ってお金を調達するか、どちらか選びなさいということです。それがアメリカ全土に広がって日本にも上陸するのではと感じます。ちなみにオレゴン州の医者は減ってきているそうです。請求書を製薬会社を書くときに膨大な資料が必要になり、必死になって書いているが、お医者さんもギブアップして減ってきているとお話をしました。ここら辺で医療制度について清水先生の考え方をお聞かせいただけたら有り難いなと思います。

三月の「人間社会の崩壊–飢餓–」は、サツマイモの話をしました。今はサツマイモを作ろうとしています。終戦直後のような危機が来る。ソ連からロシアにかわった時に飢餓で2千万人が亡くなった。日本もそういうことが起こりうると思っています。

紹介書籍

『グローバル化の終わり、ローカルからの始まり』吉澤保幸著 経済界

今回の紹介書籍は木内顧問のお薦めで友人だそうです。ここに書いてあるものは、お金という物に対して考えると、お金は2種類ある。1つは株式で勝手に動き回っているお金と自分が物を買う時に使うお金。同じお金という言葉を使うけど、中身はまるっきり違う。人間社会を根底から崩壊させていくグローバル化をしたお金はもう終わりということで、ご紹介致しました。

先ほどの「人間社会の崩壊–医療制度–」ですけれども、清水先生はどうお考えですか。

清水会員の話

紹介書籍の吉澤さんは、約7~8年前から一緒に運動させていただいています。本の中で書いてありますけど、ちょうど福田首相が洞爺湖サミットでの時、帯広に2泊3日で全国からと地元の青年部の方々あわせて250名ぐらいで農林水産業も大事にしていこうと、ここから始まっています。我々も色々な会で勉強させて頂いていますけれども、自分達の生活をもう一回見直そうと動いています。30年50年先を見据えています。それぞれの時代で良い時代というのがありましたが、我々の活動も7年目になりました。各地で年に1度ですけれど対応させて頂いています。この本の一番のポイントは、やっぱり基本的にはローカルが元気になっていこうと見直しをしています。哲学者の内山節先生も、温かいお金と冷たいお金と言うことも仰っていて、この方は日々の生活に役立つ考え方を教えるのが哲学であると仰っています。いわゆる西洋から始まった昔ながらの本の上での教えではなく、日常生活で実践をされている人です。

私は東日本大震災の翌年4月から月に一度週末に現地に行っています。そういう意味では定点観察をさせて頂いています。それから4年経ちましたけども復旧していないと思います。特に福島の場合には、地震と津波の他に人災と言われる原発です。

政府は3月に常磐道を開通させましたし、去年の10月から国道6号も震災の後、止まっていたけれども開通させています。それで今、南相馬には6千人の除染の人達が入ってしまっていてミニバブルになっています。一番潤っているのは、関係者がいましたら申し訳ないけれど、ゼネコンの方々が全部仕切っています。政府から仕事を受けて、宿舎を用意して、そこで食事を出してくれる。日曜日は休みなので土曜の晩には働いている方々も南相馬あるいは相馬の飲食店に行っています。

今の医療制度ですけど、カーター大統領でしたかね、民主党政権になって日本の皆保険制度は良いということで導入しようとしたけれど、あの時は失敗しました。今は貧しい方に対しての手厚いメディケアという制度をアメリカは導入しています。治る可能性の高い病に対しては保険を使っていくが、治療を続けていくなかで治りにくくなってくると、その時には自費でやってくださいとなってきます。この前のケースは60ドルで癌に関する治療がある。もう一方では薬局に行くと50ドルで安楽死の薬を出してもらえる。政策的には50ドルで済ませようとする話です。日本の場合は対極にありますけれども、TPPも含めてアメリカあるいはヨーロッパの言いなりになると、日本の保険会社が耐え切れなくなってくるのではと思います。民間が今、医療に入ってきてつつあります。良い悪いは別にして、規制緩和という名のもとに医師免許を持っていない人でも病院の理事長になったりしていますが、もちろん昔から医者を雇っているケースはあります。ただ、私が危惧しているのはモラルだと思っています。業者のモラルが大事だと思っています。人の命を担保にしてお金儲けをしたら儲かると思います。それをやってこなかったのが、医療の先輩方々だと思います。

実際に関わっている者としては、吉田さんが薦められているローカルをきちんとして、

そこでやっぱり生活していこう。お金も回すし物も回す。人も人として、しっかりしてくれば医療の崩壊を何とか防げるのではないかと思っています。

有難うございます。清水先生に話を振ったのは、現実のお医者様であって、なおかつ医療制度にお詳しい。南相馬市に行ってボランティアの動きもされているということで、お聞きしました。今の話の中で、アメリカはかつて皆保険制度を取り組んで失敗をした。今は取り組んでいる最中だけど中身が変質をしている。日本も形は違うけれども、やはり崩れてきている。そのポイントは命を担保にしたビジネス。こういう考え方で医療制度を推進していけば、医療制度は荒廃するに決まっている。それを関係者の方からお聞きすると、なるほど信ぴょう性を持って聞けるということをお願いを致しました。

論語の視点 <子路第十三>

【一六】葉公 ^{しょうこう} 政 ^{まつりごと} を問う。子曰く、近き者 ^{ちかもの} 説ぶときは、遠き者 ^{とほもの} 来ると。

葉公は孔子が好きだったのでしょね。仲良くお喋りをしているが、権限を持っている者が賢人に質問をしました。葉公は強権スタイルで人の心を理解しない。

葉公が何か良い政の秘訣はありませんかと聞いたら、孔子は身の周りにいる者をもう少し誉めてよく使いなさい。徳や仁を施しなさい。それで周りの人達が喜んだら、遠くの人達もよく働けると慕って集まってくる。葉公はそういうことを聞いて、自分のやり方が悪いのかなと多少は反省をしているという状況を浮かべてください。そういう会話です。

【一七】子夏 ^{しか} 莒父の宰と為り、政 ^{まつりごと} を問う。子曰く速 ^{すみや} かなるを欲すること無かれ。小利 ^{しょうり} を見ること無かれ。速 ^{すみや} かなるを欲すれば則 ^{すなわ} ち達せず。小利 ^{しょうり} を見れば則 ^{すなわ} ち大事成らずと。

同じ政を問いますけれども、子夏と孔子は45、6歳違うかな、子夏が20歳の頃で、孔子が64、5歳ぐらいですね。それぐらいの年の差があって、なおかつ子夏は病弱です。

莒父は新規の開拓地です。子夏がそこに城主で赴任する事になった。そこで「どうやって政治を行えばよいか」と、お師匠さんの孔子に聞いたら「お前は、まだ先が長いから、なるべく長い目でおやりなさい」と、教え諭している状況です。

「速かなるを欲すること無かれ」は、急ぎなさんな、焦っては駄目。「小利を見ること無かれ」目先の金を欲しがっては駄目だ。「速なるを欲すれば則ち達せず」手順を決めてやりなさい。手順通りやらないと上手くいかない。「小利を見れば則ち大事成らずと」目先でバ

タバタすると全部ひっくり返るとというのが、今日の論語の説明です。

恒例の質問

・今月に入って良い日が続いた方

何度も申しますけれども、良い日は自分の心持ちです。良いなと思ったものだけを拡大していき、夜寝る時に「ああ今日は良いことがあって良かったな」と思って寝る。それを毎日続けていけば良いことばかりです。

良い日が続いていないと思った時は、何か自分の心の中に問題があるから見直しをしてみる。普段と違う動きをしてみる。違う視点を持つてみる。一番良いのは問題を発見したらふっと消し去る。良いものだけを増やしていく。そういうことでいきましょう。

・夜寝る時、明日を過去形でイメージ出来た方

有難うございます。もう体に身についている感じで、良いことです。

・自分磨きをしている方

昨日パソコンを見ましたら、或る会社の会長のブログで、『陽明学のすすめ』の「自分磨き」は良いことだからお勧めしますと、ちょっと書いてありました。

自分磨きという言葉は、やっぱり反応するんですね。「自分磨き」は、陽明学でいけば「事上磨練」です。毎日の仕事のなかで、毎日の日常生活の中で自分を磨くとお考えいただければよいでしょう。

基本哲学 一知足、足るを知る一

これは佐藤一斎の漢詩『漫言』これが良いなと思っています。今回の四季便りの中に書かせてもらいました。

名と利を多く求めるものについては、必ずトラブルが起きるという内容の科白です。「名と利」は、名誉・地位・権限といったものを、欲しい欲しいと思って追求していくと、後に待っているものは地獄の釜の蓋が開くということです。

名誉欲で目が曇らされたり、お金儲けに執着したりしないで、まず生きていければ良いのでは。ある程度、衣食住が足りてればそれで良いじゃないか。もっともっとと欲張るととんでもない未来が待っているという科白が出ています。表現を変えますと、目の前の商売だとか日常生活でもっともっとが出たら、ちょっと待てと考えるのが良からうということです。それが基本哲学・知足のベースになります。

時事評論

昨日の読売新聞で、中国、汚職幹部を海外に追跡。習政権キツネ狩作戦とあります。

中国のメディアによると 1990 年代以降、党の幹部が約 15 兆 2 千億円を持ち出して逃亡したと書いています。15 兆 2 千億円を持ち出し海外逃亡とは、桁が違いすぎます。これは日本の感覚では考えられない数字になっています。私や皆さんが氣をつけないければならないと思うのは、今、否が応でも日本は日本だけでは生きて行けない時代になっています。自分の持っている常識は、やっぱり日本人の常識ですから、日本人の常識で生きていくとちょっと怖い。

それから株価が今年 2 千 5 百円上昇。原油安が追い風になったと出ています。これは今日の新聞に書いてありますけれども、こういうものに一喜一憂していると危ないと受け止めたほうがよいでしょう。それが結果として、これは昨日の新聞です。総合スーパー不振が鮮明イオン営業益 90%減。当たり前だという気がします。前も申し上げましたが、イオンの株主総会での態度を見ていると、以前は謙虚だと思っていたのが途中で態度が変わり株主排除の姿勢が鮮明になってからは、どんどん不振になっている。やっぱり会社はトップ次第という気がします。逆にユニクロが最高益とか、後はコンビニ業界ではセブンイレブンが独走をしています。会社によって儲かるところ、損するところ色々あります。ただこれはグローバルでの利益の追求と目先の自分の日常生活のお金、両方が動くことが怖いぞと捉えます。

私が思っていることは、これからの国々は鎖国制度が始まると思っています。それぞれの国の中で循環型社会になる。今の日本人口は約 1 億 2 千万人ですが、約 8 千万人が妥当だそうです。そうすると約 4 千万人多いので、伝染病や飢え、または戦争で死ぬのは、そう時間が掛からないで何千万人の単位だと思います。で、死ぬのについては、さあどうしましょう。誰も死にたくない。そのための方法を、いま考えて実行しつつですから、その対策はまたいずれ申し上げることにいたしましょう。